

2024年7月22日

会社名 株式会社ジェーソン

代表者 代表取締役社長兼会長 太田万三彦
(コード番号：3080 東証スタンダード市場)

問い合わせ先 専務取締役経営企画室長 山田 仁夫
電話番号：04-7193-0911 (代表)

2025年2月期第1四半期 決算に関する質疑応答集

この質疑応答集は、2024年7月11日に発表いたしました2025年2月期第1四半期 決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいた主なご質問・お問い合わせ等の内容とその回答についてまとめたものです。本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであり、ご理解いただきやすいよう、一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 第1四半期の売上高、および各段階利益の通期計画に対する進捗率が芳しくありませんが、その要因について教えてください。

A | 売上高は前期比1.1%減、営業利益は同13.0%減、経常利益は同12.4%減と遺憾ながら減収減益となりました。主力商品であるペットボトル飲料の販売自体は引き続き好調に推移したものの、社内物流における飲料比率が急激に高まったことで商品配送の一部混乱と商品ラインナップの偏りなどが生じ、結果として機会損失が発生したことが主要因です。また、当社の業態としてインバウンド需要の恩恵を受けにくい面もあり、売上の伸びが計画を下回る結果となりました。

利益面においては、ローコスト経営による各種コストの抑制や水道光熱費等の低減効果等もありましたが、売上高および売上総利益の減少を補うには至らず前年同期比で減益となりました。

Q2 | 第2四半期以降の展開について教えてください。

A | 第1四半期の課題を踏まえ、自社物流の適正化に向けて、配送用トラックの増車や配送システムの一部見直しを実施するとともに、飲料専用倉庫を新規で立ち上げるなど、現在具体的な対応策を進めているところです。同時に、尚仁沢ビバレッジ工場内倉庫の増設についても鋭意進めており、グループ全体でのキャパシティ拡大と物流体制の一層の効率化に取り組んでまいります。引き続きローコスト経営の更なる高度化とJV商品・PB商品の取り組みを強化し、売上および収益の両面で回復軌道となると見込んでおります。

Q3 | 主力の「尚仁沢の天然水」の生産、販売状況を教えてください。

A | 生産については、子会社において計画通り既存設備の一部入替を実施し、また、工場オペレーターを増員し2交替制に移行したことで大幅な生産増を実現しております。また、販売についても、需要の高まりを背景に引き続き好調な販売を維持しております。

Q4 | 新たなPB商品である「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」の販売状況や、お客様の反応について教えてください。

A | 2024年5月末より、新たなPB商品として「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」を発売いたしました。おかげさまで大変ご好評をいただき、想定以上の好調な売れ行きで推移しております。現在生産が追いつかない状況となっており、更なる増産を進め、第2四半期以降の売上増につなげてまいります。

Q5 | 今後のPB商品戦略について教えてください。

A | 「尚仁沢の天然水」、「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」に続く新たなペットボトル飲料の商品企画ならびに開発を加速させております。また、飲料以外の商品においても幅広く検討しております。

Q6 | 店舗のスクラップ&ビルドの状況について教えてください。

A | 第1四半期においては、新店舗として5月に「東村山青葉町店」をオープンいたしました。オープン以降、計画を上回る概ね好調な売上、来店客数で推移しております。第2四半期以降の出店計画も進んでおり、7月10日に常陸太田市に新店舗をオープンし、着実に店舗網を拡大しております。